

学士会共催・七大学若手会 総会・第2回講演会開催

2015年6月20日(土)日本教育会館にて七大学若手会年次総会および第2回七大学若手会講演会が開催された。東京では一般社団法人学士会との初共催のイベントであり、学士会からは渡辺幸重 事務局長と小堀康生 事務局次長が参加され、総勢40名(男性：26名、女性14名)が交流を深めた。

第一部では七大学若手会総会が開かれ、許会長(2006年京大経済修了)による七大学若手会の設立経緯、運営方針、今後若手会が目指す姿の内容を含めた「設立趣旨」の説明がなされた。また、2014年7月7日七大学若手会設立の際に制定した「七大学若手会

を担当した寺西氏より今回の講演会開催のために尽力した幹事団の紹介が行われた。幹事団の名前と役割は下記の通り。

講演会

第一部では、「Change, or Die」(カルビー変革の序章)と題して松本晃氏より「自身2009年にカルビー株式会社代表取締役会長兼CEOに就任されて以来、カルビー(株)の6期連続最高益を記録した会社の経営の秘訣、リーダーシップについて話された。時折ユーモアを交えた話に、参加者たちは聞き入った。

則の修正案(会長の立候補条件)について説明し、全会一致で可決された。

第一部の終わりに一次会司会



学士会の活動を紹介される渡辺幸重事務局長

設立趣旨を述べる許会長

講演内容の抜粋

◆ 仕組みを変える
 高い目標を達成するためには、計画の作り方と、その計画を実行するための土壌や仕組みから変えていかなければならない。その要素としてリーダーシップ、プラン、ビジョンを運用する体制にするのが大事。

◆ 会社の経営に必要なこと
 <ビジョン> 経営責任のあり方
 すべてのステークホルダーを満足させるための順番は
 1.顧客と取引先
 2.従業員とその家族
 3.コミュニティー
 4.株主

<プラン> 正しい働き方・動き方
 「一利を興すは一害を除くに如かず(モンゴル帝国宰相・耶律楚材の言葉)」。害になることをひとつやめることは、利益になることをひとつ始めるよりよいという意味であり、「仕事の棚卸し」という形で社内の仕事の考え方に応用し、ムダを徹底的に排除して効率を上げる働き方にした。

- ①「良いこと」で現状できていること
- ②「良いこと」だけど、現状できていない
- ③すぐやめた方がいいものを分類し、②を実行し、③をやめた。

<リーダーシップ> 合理的かつ達成可能な目標を立てる
 100という目標を立てたら、90の達成は当然ながら110となっても失格。それは目標設定の仕方がいい加減だったか、1年先を見通す力がなかったかのいずれかであり、ビジネスマンとしては失格。100~101の間にピシャリと収めるのが一番正しい仕事のやり方である。そして成果を出した従業員へAppreciation(感謝)し、Recognition(成果を賞賛)し、Compensation(働きに見合った報酬)を与える。

講師略歴

1947年、京都市生まれ。京都大学大学院 農学 研究科 修士課程 修了。
 1972年4月伊藤忠商事 入社。医療機器 販売の子会社を経て、93年ジョンソン・エンド・ジョンソン日本法人へ。同社の社長、最高顧問を歴任。08年カルビー社外取締役役に就任、09年6月より現職。



熱弁をふるわれる松本会長



賛助会員の杜氏(右)と田中氏(左)



熱心にディスカッションを行う参加者たち



グループワークに移ると講題に関連して参加者のそれぞれの所属組織グループなどで変えた経験、変えたいと考えていることを熱心に語り合い、まさしく「ここからはじめろ、七大学若手会」の力で変える未来」といった幹事団一言に通ずる熱意に溢れた。質疑応答の時間になっても熱心に質問される参加者の姿があり、七大学若手の関心の高さが窺えた。

分りやすく進行を進める寺西氏

講演内容を踏まえたGW



クイズ進行を行う許会長



高度なクイズに知恵を絞る参加者たち

賛助会員認定



賛助会員認定書を手に許会長と



賛助会員になられた



チームを代表して景品授与される参加者(上)
40周年コラボ企画期間限定商品

田中正人様が披露された踊り ポテトチップス日本の塩味、世界の塩味(下)

講演会後に部屋を移して行われた松本会長も参加された懇親会では、カルビーのお菓子を中心に、参加者同士交流を深めた。中盤には恒例のクイズ大会が行われ、カルビーに関連する出来事と七大学に関する出来事が合わさったクイズが10題出題された。一筋縄では回答できないクイズに参加者たちはグループで知恵を絞り、回答を続けた。5問終了した時点で正解数2でトップで並んでいたA、Bチームであったが、ここからAチームが快進撃を続け最終的に6問正解で優勝を果たした。

氏名	性別	出身大学	卒業年	勤務先
田中正人	男性	京都大学	1979年	株式会社菓匠三全
南原晃	男性	東京大学	1958年	全日本大学野球連盟



若手会だより

第2回七大学若手会講演会に先立ち、学士会の南原晃常務理事(左写真)と学士会館にて会食を行った。会長と東京にいる役員4名全員が出席し、懇親

講演会が行われた日本教育会館の2階にある「泰南飯店」において、二次会が開催された。通常飲み放題2時間のところ、お店の早期予約特典として3時間余裕のあるという設定で出席者は16名。担当役員の酒井氏の乾杯が始まり、全国から様々な業種の方々が集い、自己紹介や席替えを行いつつ、活



発に交流が行われた。賛助会員として宮城県からお越し下さった田中氏の中締めで終わった。若手会のしめくくりに相応しい和気藹々とした雰囲気の中で、参加者同士懇親を深めていた。

担当役員と幹事団写真紹介



数々の困難を乗り越え役員業務を行った主担当役員酒井氏



主担当役員を目一杯サポートした副担当役員西澤氏



1次会2次会の司会コンピ寺西氏、山田氏



午前中別の用事がある中で幹事として駆けつけた意欲高き山口氏、杉原氏



新聞編集にチャレンジした川上氏

を深めた。南原晃氏は若手会の趣旨を賛同し、活動に意義を感じられ、その場で賛助会員になりたいとお申し出があった。これで若手会の賛助会員が5名となり、今後益々の発展が期待される。

11時、幹事団が会場へ到着。会場前スペースで担当役員酒井氏が張り切って行商のように荷物を広げた瞬間、「ここは共用スペースだから困ります！」と怒られる。その後も多くの「できません！という制約に泣きそうになるも、負けずに準備を遂行。懇親会で出すお菓子の買出しチームは勿論カルビーを選んだ。



昼食中も熱心に打ち合わせを行う幹事団

◆4年ぶり、感動の再会参加者のA君は、「自身の勤務先の研修で隣同士の席であった大阪から若手会のために飛んできた参加者のBさんと二次会が隣り合い、4年前より成長した姿に感心する場面があった。

若手会今後の予定

- 【関東】7月26日(日) 若手昼食会 於 東京
- 【関西】8月8日(土) 講演会 於 大阪
- 【関東】8月30日(日) 若手昼食会 於 東京



※詳細と参加申込 七大学若手会